

保育の表現指導を豊かにする「歌のしかけ絵本」に関する研究

東 ゆかり（初等教育学科・教授）・薩摩林 淑子（初等教育学科・准教授）
山成 美穂（初等教育学科・講師）・長谷川 麻実子（鎌倉女子大学幼稚部・教諭）

1. 研究の目的

本研究は、保育者養成課程の授業「保育内容演習表現」で行っている「歌のしかけ絵本」の制作とそれを用いた表現活動について、手作りの「歌のしかけ絵本」を学生が保育現場において実践し、その活動をビデオ撮影・写真撮影して詳細に分析・検討するとともに、この実践を子ども達と共に見る保護者へのアンケート調査・保育士へのインタビュー調査も合わせて行い、「歌のしかけ絵本」の子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義・発展性を検討することを目的としている2年間の共同研究である。

平成29年4月より取り組んでいる本研究においては、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をふまえたうえで、授業「保育内容演習表現」実践の教育的意義・有効性・課題・展望の検討を行ってきたが、研究の結果、この表現活動が学生（保育者）の資質を高める表現指導の一つであることが確認された。平成30年4月からの本継続研究においては、「歌のしかけ絵本」の子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義・発展性の検討を行っていく。

2. 研究の計画

（1）平成30年度

- 1) 鎌倉女子大学幼稚部たんぽぽクラス（未就園児クラス）において、学生が「歌のしかけ絵本」の実践（演奏発表）を行う。実践をビデオ撮影・写真撮影し、図工的側面、音楽的側面からのビデオ分析・画像分析を行うとともに、実践学生へのインタビュー調査（表1）、たんぽぽクラス保育者へのインタビュー調査（表2）、たんぽぽクラス在籍児保護者へのアンケート調査（表3）を行う。
- 2) 発達段階に即した表現教材及びその有効性についての検討を行う。
- 3) 都内の絵本図書館において、現在の子どものための歌の絵本等に関して調査を行う。

（2）平成31年度

- 1) 鎌倉女子大学幼稚部及び県内又は都内の保育現場において、学生が「歌のしかけ絵本」の実践（演奏発表）を行う。実践をビデオ撮影・写真撮影し、図工的側面、音楽的側面からのビデオ分析・画像分析を行うとともに、実践学生へのインタビュー調査、幼稚部教諭、保育現場の保育者へのインタビュー調査を行う。
- 2) データの整理と分析を行い、「歌のしかけ絵本」の子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義・発展性を検討する。
- 3) 日本保育学会において、研究発表を行う。

表1. 学生へのインタビュー調査の内容

- ・研究参加者：本学初等教育学科2年生4名。
- ・調査所要時間：1人あたり20分程度。
- ・内容：制作課程において
 - ①指定された曲集の中から、なぜその曲を選んだのか？
 - ②制作にあたり子どもに見せる教材として特に配慮した点はどのような部分か？
保育現場における実践（演奏発表）について
 - ③保育現場における実践に向けどのような点に配慮して練習したか？
 - ④自分の制作物と演奏発表方法の特徴・魅力について。
 - ⑤実践（演奏発表）を行った時の子ども達の反応はどうだったか？
 - ⑥実践（演奏発表）を行ってみてどのような感想を持ったか？課題はあったか？

表2. 保育者へのインタビュー調査の内容

- ・研究参加者：
 - 平成30年度：鎌倉女子大学未就園児たんぽぽクラスの保育者2名
 - 平成31年度：幼稚園教諭2名、県内又は都内保育現場の保育者2名
- ・調査所要時間：実践（演奏発表）後、1人あたり15～20分程度
- ・内容：① 歌のしかけ絵本の演奏発表を見て印象に残った点。
 - ② 歌のしかけ絵本の演奏発表を見ている子ども達の様子はどうだったか？
 - ③ 演じている学生の様子はどうか？
 - ④ 歌のしかけ絵本の教材としての可能性、改善点について、気付いた点。

表3. 保護者へのアンケート調査の内容

- ・研究参加者：実践（演奏発表）を視聴したたんぽぽクラス在籍児の保護者
- ・調査所要時間：実践（演奏発表）後の約10分程度
- ・内容：① 歌のしかけ絵本の演奏発表を見て印象に残った点。
 - ② 歌のしかけ絵本の演奏発表を見て、お子さんの様子はどんな風だったか？
 - ③ 自宅では、普段お子さんとどのような絵本を読んでいるか？
 - ④ 歌のしかけ絵本を見て、お子さんにとってどんなところが良かったか？
また、どんなところが難しいと思ったか？

3. 研究の中間報告—平成30年度の成果—

（1）鎌倉女子大学幼稚部たんぽぽクラス（未就園児クラス）における実践と考察

1）2018年9月20日（木）11：50～12：10における実践

- ①実践者：初等教育学科2年Aさん「山の音楽家」、Bさん「おもちゃのチャチャチャ」
- ②対 象：たんぽぽクラスの子ども（2歳児）とその保護者
- ③内 容：子ども17名と保護者18名の前で歌に関する導入のお話をしたのち、ピアノ伴奏に合わせて「歌のしかけ絵本」をしかけを動かしながら歌った。
- ④実践の考察

◆実践者の視点から（実践の様子及びインタビュー内容より）

Aさんの絵本の特徴は、歌詞の文字、動物の絵が大きく、子どもにわかりやすいように工夫した点である。導入では、どのような楽器を知っているか子ども達に問いかけ、実践では歌詞に合わせて自ら楽器を弾く動作を行い、自らがしかけの一部となって実践した。Aさんは、導入の時点で子ども達からたくさんの反応がかえってきたこと、楽しそうに体をゆらしながら聴いてくれた様子を見て、いい反応が得られたと述べた。

Bさんの絵本の特徴は、子どもが触れることを意図した点である。柔らかいフェルト素材を多用し、たたくと音が鳴るおもちゃの楽器（ビーズや鈴を入れた手作り楽器）を入れている。導入では、好きなおもちゃについて問いかけ、実践では、歌詞の「チャチャチャ」のところでタイミングよくしかけの楽器を鳴らした。Bさんは、導入の対話がスムーズにいったこと、曲が始まると歌いながら手をたたいてくれたり、興味を持ってじっと見てい

る子どもがいたことが嬉しく、子ども達と一緒に自分も楽しめたと述べた。

◆子どもの視点から（ビデオ分析より）

日頃から、集いで絵本の読み聞かせに集まってくる子どもと自分の遊びを続けたい子どもがいるため、当日は椅子を用意し、自分の居場所を子ども達自身がわかりやすくなるようにし、注目したくなるように環境の工夫をして始めた。始まる時に椅子やござ、母親の膝の上に座っている子どもはいつもより多い半数以上の11名。男児aは母に連れ戻されて椅子に座る。男児bも遊具の馬に乗ったまま見る。（a、bは普段から集いよりも自分の遊び優先なところがある。）導入の「知っている楽器は何か」という問いかけに答える子どもが数人いたが、導入部分は集中が難しい子どももあり、違う方を向いたり、気持ちが完全に向いている訳ではない。しかしピアノの音がして絵本のページが開かれると、そのような子ども達も含めて座っている子は絵本に注目していた。真剣に見入る姿が多かったが、中にはフルートを吹く指の動きを母親と一緒にやったり、手拍子を打ったりしていた。

◆保護者の視点から（保護者アンケートの内容より）

印象に残っている点；①音楽と絵本が一体化している、②しかけや素材が魅力的である、③子どもが知っている歌で、リズムがゆったり、④歌が上手。子ども達の様子；大半が真剣に見ており、体でリズムを取ったり、一緒に歌ったりする姿が見られ、普段は集中力が途切れる頃であるが集中できた。あまり聞かない曲だったので聞き入っている様子があった。良かった点；①絵本も音楽があるとより興味が持てる、②知っている曲であることで一緒に歌ったり体を動かしたりできた、③絵や文字で曲の内容を知ることができた、④しかけの部分や色彩が豊か。難しい点；①絵本がもう少し大きい方が良い、②テンポはもう少しゆっくりが良い、③しかけがよりシンプルである方が理解しやすい、④長く集中できない（踊っていい感じだとより良い）、④歌の意味の理解は難しい、⑤動きがあると良さそう。

【写真1】絵本A「山の音楽家」



【写真2】絵本B「おもちゃのチャチャチャ」



◆保育者の視点から（インタビュー内容より）

当日子ども達と一緒に実践を参観した保育者2名からは、普段から話を聞くのが好きな子ども達がとても集中していたこと、普段はあまり関心がない子どもが、少し離れた場所で他の遊びをしながら見ていたことが述べられた。また、しかけが小さいので、大きさの点で改良の余地があるのではないか、との意見があり、日頃の子どもの様子を良く知って

いる保育者ならではの意見が述べられた。

【写真3】鎌倉女子大学幼稚部たんぽぽクラス：室内の様子



2) 2018年9月25日(火) 11:50~12:10における実践

①実践者：初等教育学科2年Cさん「線路はつづくよどこまでも」、Dさん「雨ふりくまのこ」

②対象：たんぽぽクラスの子ども(2歳児)その保護者。

③内容：子ども15名と保護者15名の前で、歌に関する導入のお話をしたのち、ピアノ伴奏に合わせて「歌のしかけ絵本」をしかけを動かしながら歌った。

④実践の考察

◆実践者の視点から(実践の様子及びインタビュー内容より)

Cさんの絵本の特徴は、キラキラ光る素材や立体的なシールを使いカラフルにした点である。子どもが見て楽しくなるような物にしたいという願いで制作した。導入では乗り物の話をし、実践では電車のしかけを曲に合わせてリズムカルに動かしながら演じた。Cさんは、想像以上に子ども達が身をのりだしたりしてよく見てくれ、「電車が走っている!」と喜ぶ子どももいて嬉しかったと述べた。

Dさんの絵本の特徴は、「雨」の表現を水色を基調にしながらキラキラした素材やビーズを多用し、華やかになるよう工夫した点である。導入では雨をイメージできるよう傘についての話をし、実践では、曲調にあった優しい声で歌い、くまの仕草(小川を覗く、水を一口飲む、傘をかぶる)を自身が行った。Dさんは、しかけやキラキラした素材を見て子ども達が近づいてきて絵に注目してくれたことは良かったが、歌を知らないようだったので、一緒に「歌える」ということも今後大事にしたいと述べた。

◆子どもの視点から(ビデオ分析より)

日頃より、集いでの絵本の読み聞かせを楽しみにして集まる様子が見られる。全体的に誰かの行動に同調しやすい傾向がある子ども達である。この日は男児cを除き、全員がござや母親の膝に座った状態で始まる。男児cは母親が立ったまま抱えられて見ている。導入の「電車ののったことあるかな?」の問いかけに、「ある!」「電車ののったことある!」と何人かの子どもが答える。ピアノが始まると、周囲の手拍子に合わせて子ども達も手拍子を始める。男児cは絵本が始まって何やら話している。前に行き、もっと近くで見たがっている様子。2曲目の「今日はどんな傘で来た?」との問いかけにも、「あお!」と

答えるなど話の内容をよく聞いている。男児cが前に出て来た時も、他の子ども達は真剣に絵本を見ていた。男児cの動きに注目する子どもや同じように前に出てくる子どもが一部いたが、ほとんどが集中して見ていた。最後に雨に気づいて絵本の中のしずくに触ると、座って見ていた他の数名の子ども達も立ち上がり、絵本に触っていた。

◆保護者の視点から（保護者アンケートの内容より）

印象に残っている点；①音楽に合わせて物語が進行していく点、歌だけより楽しめる、②電車が動く、線路の変化、傘が立体的、くまが川を見ている等のしかけや色使いがキラキラしている点、③知っている曲で歌えて楽しかった、④文字が大きく書かれていた点。子ども達の様子；大半が興味深そうに集中して見ており、座って見ていた子どもがほとんどではあったが、しかけがよく見たかったようで前に出て触って見る子どももいた。電車が出てくると「でんしゃ」と声をあげたり、一緒に歌ったり音楽に合わせて手を揺らしたり、時々ピアノの方を見ていた。良かった点；①演奏がついていた点、②知っている歌がわかりやすく楽しかった、リズムにのって歌えた点、③電車や傘などのしかけや色合いが鮮やかな点、文字の大きさ、④遊びたい気持ちをおさえて見たり、興味を引くもので注目できた点。難しい点；①本の大きさ、②スピードが速い（注目する場所が分らなくなる）、③しかけの工夫の仕方（雨の動きがリアルに分かるとよい、動きが多いと難しい）、④知らない歌だと理解できない、⑤家で歌いながら同じようにするのは難しい、⑥力加減が難しく雑に扱ってしまう、⑦年齢にもよるが歌詞は必要ないのではと感じた。

【写真4】絵本C「線路はつづくどこまでも」



【写真5】絵本D「雨ふりくまのこ」



◆保育者の視点から（インタビュー内容より）

保育者からは、音楽がついていることでリズムにのりながら知っている歌と一緒に歌えること、絵のしかけや色合いが鮮やかで、文字の読めない乳児も一緒に楽しむことが出来たことについて述べられた。また、制作時の工夫すべき点として、しかけの動きが多いと、子どもには難しくなること、知らない歌であると理解できないこと、触りたくて近づくと力加減が難しいので雑に扱ってしまうことが挙げられた。

（2）2歳児の発達段階に即した表現教材とその有効性—今年度の実践結果をふまえて—

自己主張の時期とも言われる2歳児は、今自分のしたいことを優先し、集いへの関心がまだ薄い子どももおり、関心の向け方や理解力に個人差が大きいところがあるが、「歌のしかけ絵本」は、絵本だけでなく演奏があることでより意識が向けやすいこと、しかけに

動きがあったり立体的であることでより興味を引き出すものとなることが分かり、これらの点で「歌のしかけ絵本」の有効性が確認できた。絵本から歌の世界を想起しやすくなり、歌の内容を知ることができるという点で、教育的効果も大きいと考えられる。

一方、しかけの数が多すぎることで子どもが注目する点が分かりづらくなるため、そうならないような工夫、どのようなしかけが興味を引くものであるかといった年齢に合わせたしかけの内容の検討が必要である。また、絵本の歌詞について、2歳児はまだ文字が読めないことから必ずしも必要ではなく、年齢と目的（用途）に応じて用いるとよいと考えられる。合わせて、2歳児の発達に相応しい曲選びも必要となると考えられる。

（３）国際子ども図書館における調査報告

2018年12月1日、「歌のしかけ絵本」に類似する児童向け教材の調査として、国立の国際子ども図書館を訪問した。同図書館の蔵書は子ども達が自由に蔵書を閲覧することができる「子どものへや」と、成人のみが利用可能な児童書研究のための「児童書研究資料室」の2つがあり、今回はその両方の状況を調べた。「子どものへや」には、『うたのえほん』という楽譜をメインに挿絵が少し描かれている児童向けの歌集がわずかにあったが、名前は似ているものの、大きさ、材質、内容は本研究における「歌のしかけ絵本」とは全く用途が異なっていた。一方、「児童書研究資料室」には、手作り布絵本と遊具に関する資料があり、その中の布絵本の作り方事例として、「歌のしかけ絵本」に近い形状と目的の絵本があった。資料室の蔵書を調査した結果、「歌のしかけ絵本」は、子どもの情操教育教材である手作り布絵本、パネルシアター、エプロンシアター、しかけ絵本、紙芝居と、その教育目的や形状の点において類似する点が多く見られることが分かり、各教材を扱う上での準備学習の役割もあるのではないかという視座が得られた。

4. 次年度に向けて－今年度のまとめと来年度の課題－

2歳児に向けての「歌のしかけ絵本」の学生による実践を通して、学生、実践を見た子どもの保護者、保育士にもアンケート・インタビュー調査を行い、2歳児にとっての「歌のしかけ絵本」の表現教材としての有効性・教育効果を検討した結果、次の3点が明らかになった。①絵本だけではなく演奏があることで意識が向きやすい。②しかけで興味を引き出すことができる。③「歌のしかけ絵本」の実践を見たり、聴いたりすることで歌の内容理解につながる。また、課題としては、2歳児に合わせたしかけの数や内容の工夫が必要、年齢に合わせた選曲が必要であることが明らかになった。これまで、「歌のしかけ絵本」の制作をする際に具体的な対象年齢を想定するという視点はなかったが、今後は、その点についても考慮していく必要があるだろう。次年度は、今年度の結果をふまえて、3～5歳児に向けた実践を通して、子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義について、更なる検討を行っていく。